



「DO YOU KYOTO?」ロゴマーク

月刊

2009年

あじenda 11月



みやこ
京のアジェンダ21フォーラム 事務局通信
月刊あじendaは当フォーラムの活動紹介を中心とした
京都発、環境関係の情報発信紙です

京のアジェンダ21フォーラム事務所

〒612-0031

京都市伏見区深草池ノ内町13

京エコロジーセンター2F 活動支援室内

TEL: 075-647-3535

FAX: 075-647-3536

E-mail: ma21f@mbx.kyoto-inet.or.jp

開室時間: 8時45分～17時30分(木・日休室)

アクセス: 京阪電車「藤森」西へ徒歩5分

地下鉄・近鉄「竹田」東へ徒歩13分

市バス・京阪バス「青少年科学センター前」南へすぐ



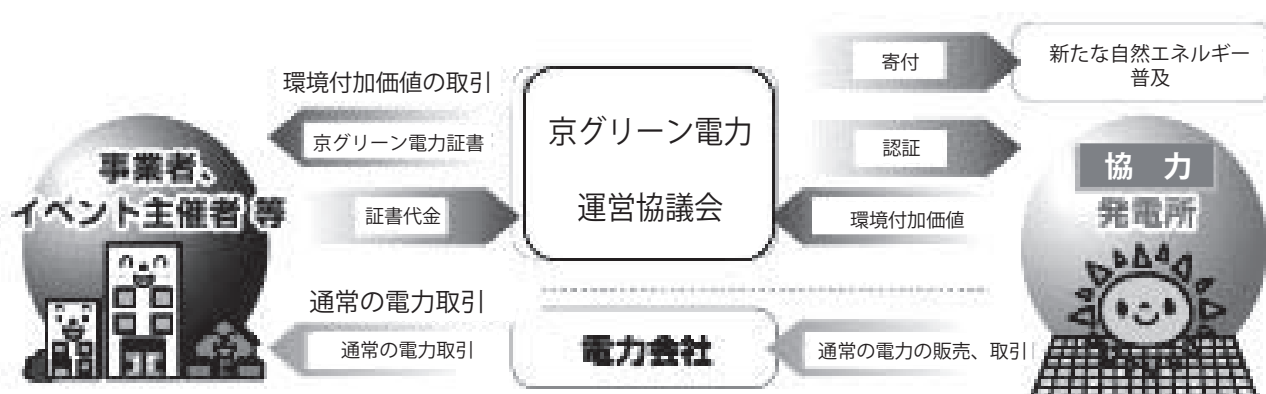
みやこ
京グリーン電力制度の事業主体が
みやこ
「京グリーン電力運営協議会」に移行します

フォーラムでは 2007 年度、2008 年度と、地産地消による太陽光発電の普及を目指し、京都市内の「おひさま発電所」(NPO 法人きょうとグリーンファンドの「おひさま基金」で設置された太陽光発電設備)をはじめとする太陽光発電設備で発電された電力の環境付加価値をフォーラムが証書化して販売する、京都独自のグリーン電力証書制度「京グリーン電力制度」を試行実施してきました。

この度、2 年間の試行実施の実績をもとに更なる制度の拡大を目指し、10 月 5 日付で、環境問題に取り組む様々な主体で構成する「京グリーン電力運営協議会」に運営を移行しました。京グリーン電力運営協議会では、ますます京都における自然エネルギー普及を目指して活動していきます。販売開始は 11 月中旬の予定です。移行後も引き続き京グリーン電力制度にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

*詳しくは、同封の「京グリーン電力運営協議会 紹介資料」をご覧ください。

みやこ
■ 移行後の京グリーン電力制度の仕組み



みやこ
■ 移行後の事業主体：京グリーン電力運営協議会

代表 松岡 憲司(伏見新エネルギー研究会、龍谷大学 経済学部教授)

事務局 有限会社ひのでやエコライフ研究所内(担当: 木村)

〒600-8085 京都市下京区葛籠屋(つづらや)町 515-1 3F

電話・FAX 075-708-8153 E-mail office@miyako-gpc.com



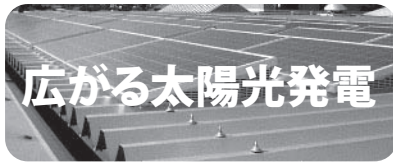
Agenda Forum

11月の予定

- 16日(月)「家庭の省エネ相談所」開設(伏見区役所)【10:00～14:00】
- 17日(火)「家庭の省エネ相談所」開設(深草支所)【10:00～14:00】
- 21日(土)、22日(日)「京都環境フェスティバル2009」に出展(パルスプラザ)【10:00～16:00】
- 23日(月)「第17回伏見西部ふれあいプラザ」に出展(京都競馬場)【10:00～14:30】
- 25日(水)「家庭の省エネ相談所」開設(カト洛北)【14:00～16:00】

11月30日まで
バスと電車でecoグルメ!

実施中!!



地球温暖化防止のためには自然エネルギーの普及が重要です。フォーラムではこれまで、京グリーン電力制度の創設など自然エネルギー普及の

仕組みづくりを行ってきました。民主党政権は「全ての主要排出国が意欲的な削減目標に合意すれば、日本は 2020 年までに温室効果ガスの 90 年比 25%削減を目指す」と宣言し、マニフェストでも、2020 年には一次エネルギー（石炭・石油・天然ガス・水力・原子力など、自然から採取されたままの物質を源としたエネルギー）総供給量のうち 10%を再生可能エネルギー（自然エネルギーと同義）にすることを掲げました。今、国の自然エネルギー普及の流れも大きく変わろうとしています。 【写真 京都市内の太陽光発電設備設置施設（一部）

上：りょうがおか保育園（山科区）
下：京エコロジーセンター（伏見区）】



■ 11 月から新たな固定価格買取制度がスタート
—太陽光発電設置コストの回収が大幅に短縮—

固定価格買取制度とは、電力会社に高い価格での電力買取を義務づけ、発電設備を使いながら設置コストを回収できる仕組みのことです。これにより、ドイツでは太陽光発電が急速に普及しました。日本でも 11 月から、太陽光発電の余剰電力の新たな買取制度が開始されることとなりました。余剰電力とは、太陽光発電により自分のところで発電した電力のうち、自分のところで消費する電力（自家消費分）をのぞいた分です。これまで、電力会社が自主的に電気料金とほぼ同じ額で買い取っていましたが、11 月からは、例えば住宅の場合は今までの約 2 倍の金額 48 円 /kWh で 10 年間買い取ることになります。住宅の場合、一般的な 3.5kW 型のパネル（年間発電量 約 3,500kWh）を設置するとすれば、補助金をのぞくと設置者の負担は 200 万円くらいかかります。これまでは、元を取るのに 20 年～ 35 年程度かかっていましたが、新たな買取制度になれば、10 ～ 15 年程度で設置コストを回収できるようになると言われています。買取費用は、来年 4 月から、一般消費者の電気代に上乗せすることにより賄われます（毎月数十円～ 100 円程度）。

■ 全量買取制度に向けた動き

—太陽光発電の飛躍的な拡大の可能性も—

民主党はマニフェストで、自然エネルギーの全量固定価格買取制度を掲げました。余剰電力のみならず全量が対象になり、自宅で使う電力もいったん電力会社が買う形にすることで、発電設備を設置した人のメリットが大きくなります。事業として設置する

大規模な太陽光発電所も増え、大幅に自然エネルギーが普及することが期待できます。

一方、前述したドイツでは、これまで全量買取制度を実施してきましたが、投資目的の設置のみが膨らみ市場の動向に需要が左右される危険性があるため、自宅で使う自然エネルギーの需要促進を目的に、今年から家庭を対象に、家庭で発電した電力を自家消費させる仕組みを導入しました。どのような制度も万能ではなく社会状況に合わせて変えていくことが必要ですが、少なくとも全量買取は、海外の例を見ても、飛躍的に太陽光発電を普及させるきっかけになることが期待できます。

しかし全量買取開始までには配線の切り替え工事等のために数年はかかるとされており、その間の自然エネルギー普及施策として、自家消費分の環境付加価値を市場で取引するグリーン電力証書制度も効果的です。フォーラムでも引き続き、地球温暖化防止のため、グリーン電力証書制度の普及啓発等、自然エネルギーの利用拡大に向けた活動を推進していきます。

- 資源エネルギー庁 太陽光発電の新たな買取制度
<http://www.enecho.meti.go.jp/kaitori/index.html>
- 省エネドットコム 国、地方自治体の補助金情報
<http://www.shouene.com/know/subsidy/index.html>
- 京都市
助成金額 5 万円または 8 万円（景観規制区域）/kW
平成 21 年度 住宅用太陽光発電システム設置助成制度
<http://www.city.kyoto.lg.jp/kankyo/page/0000061002.html>
- 国 助成金額 7 万円 /kW
太陽光発電普及拡大センター
<http://www.j-pec.or.jp/02gaiyou.html>

バスと電車でecoグルメ! レストラン・カフェでできる環境取組

—作る人や自然生態系への負担が少ない食材の選択—

フォーラムでは2007年度より「バスと電車でecoグルメ!」を実施しています。市民や観光客の皆さんには、マイカーではなく公共交通を利用してもらい、また飲食店には環境配慮の取組をしていただくことを目的としています。今回は、飲食店でできる環境の取組のうち、作る人や自然生態系への負担が少ない食材の選択について紹介します。



■フェア・トレード食品の使用

日本には世界中から多くの食品が輸入されています。コーヒー、バナナ、カカオ、砂糖など開発途上国から輸入される食品は、現地で作物を作った人たちに公正な報酬が支払われていないことが多くあります。「フェア・トレード」は、世界経済や流通システムの歪みによって貧困に追いやられている人々が正当な報酬を受け、誇りを取り戻して自立することを目指す、対等なパートナーシップによる貿易です。

京都市の環境行動計画「京のアジェンダ21」は、1992年にリオデジャネイロで開催された「地球サミット」にて持続可能社会への行動計画「アジェンダ21」が提唱された流れを受けて、1997年に策定されました。「アジェンダ21」の基本理念の中には、貧困撲滅と、より公正な世界の資源配分が環境政策にとって重要であることが掲げられています。

最近ではフェアトレードコーヒーなどがメニューにあるカフェが少しずつ増えてきています。フェアトレードの食品やメニューを扱う飲食店が、今後増えていくことを期待します。

■持続可能な漁業による魚介類の使用

国連食料農業機関（FAO）によると、現在、乱獲等の理由により、主要な200魚種のうち8割が、これ以上捕獲すると持続可能ではない状態になっています。先日も、日本海クロマグロの平均体重が、この25年間で160kgから44kgに減少しているこ

とが報道されていました。漁業技術の向上により、産卵期の若い個体まで捕獲されるようになったことが原因だと考えられています。クロマグロ、マイワシなど日本食にも馴染みのある魚が、年々小型化したり、漁獲量が減少しています。

そんな中、海のエコラベルと言われる「MSC（海洋管理協議会）認証制度」が生まれました。このマークは、水産資源や海洋環境に配慮して獲られた水産物に与えられます。イギリスに本部のある「MSC（海洋管理協議会）」が定めた「持続可能な漁業のための原則と基準」に基づき、漁業を第三者の認証機関が認証し、その漁業で獲られた水産物にはMSCの認証マークを付けることができます。

来年、名古屋で、生物多様性条約第10回締結国会議が開催される中、持続可能な漁業が注目されるようになっていくと考えられます。欧米のように、魚介類を提供する飲食店で、MSC認証を得た食材の使用が少しずつ広まることを期待します。



【MSCマーク】

。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。

皆さんも、ぜひ、外食の際にはエコな取組を行う飲食店を選択肢に入れてください。

【お願い】フォーラムの年会費について【会費の納入】

日頃は、京のアジェンダ21フォーラムの活動にご支援を賜りありがとうございます。

会費納入について、以前にご案内させていただいていますが、納入がまだ確認出来ない方がいらっしゃいます。

今一度ご確認いただき、未だの場合は下記へご納入いただきますよう、よろしくお願いいたします。なお、今回のお願いと行き違いに会費を納入いただいている場合は、まことに恐れ入りますがご容赦をお願い申し上げます。

【郵便振替】 ゆうちょ銀行 00960-7-143508 京（みやこ）のアジェンダ21フォーラム

【銀行振込】 三菱東京UFJ銀行 京都支店 普通預金 5468383 京のアジェンダ21フォーラム 代表 内藤正明
(ミヤコノアジェンダ21フォーラム ダイヒョウ ナイトウマサアキ)

京都環境コミュニティ活動 (KESC) プロジェクト 交通環境学習チーム 京都市立月輪小学校で初授業

寄稿：小野 淳一さん (KESC 交通環境学習チームリーダー (株)ホンダカーズ京都)



【江戸時代の駕籠が登場】
かご



【元気に手を挙げる児童の皆さん】



【最後は全員で唱和。「地域からはじめよう!人にも地球にもやさしい車の使い方を!」】

初めて京都市立月輪小学校での出前環境学習を行うきっかけとなったのは、同校の体育振興会会長が KESC 交通環境学習チームの活動を知り、「是非とも」と校長にお話しいただいたことでした。まさに地域からの要望で実現した授業となりました。

学習の内容は、現代と江戸時代を交通（乗り物）の観点から比較し、便利になれば CO2 の排出量も多くなることから、地球温暖化が起こる仕組みと事象を伝えました。事業者からは現代の乗り物も選び方や使い方で CO2 の排出量を大きく削減できることを、また京都市からは、公共交通の整備に加え電気自動車の充電設備が学区の所属する東山区役所に設置されたことを紹介しました。

今回の授業では新たに太秦映画村さんがチームに参加され、江戸時代の社会を紹介することにより、交通や乗り物についてだけではなく、今、地域社会が取り組んでいる 3R 活動が江戸時代では当たり前に行われていたこと等も児童たちに学習してもらいました。

- テーマ 「地域で働く人達と『くるま』について考えよう」
- 日 時 2009年9月18日(金) 10時40分～12時15分(90分授業)
- 実施校 京都市立月輪小学校(東山区)
- 実施者 KESC 交通環境学習チーム
チームリーダー 小野 淳一(株式会社ホンダカーズ京都)
メンバー(順不同)

筑波 聖之(株式会社ホンダカーズ京都)、山沢 邦良(株式会社エコロ 21)、長屋 博久(有限会社村田堂)、米澤 正尚(株式会社東映京都スタジオ「東映太秦映画村」)、坂下 尚子(京都市環境政策局環境企画部環境管理課)

藤森通信 竹花 由紀子



■ KESC 年内の予定 ■

- *KESC 市民共同おひさま発電所づくりチーム 環境学習紙芝居
11月22日(日) パルスプラザ
(伏見区 京都環境フェスティバルにて)
- 12月9日(水) つくし保育園(伏見区)
- *KESC 交通環境学習チーム 環境学習
11月22日(日) パルスプラザ
(伏見区 京都環境フェスティバルにて)

京都環境コミュニティ活動 (KESC) プロジェクトは、京都の小学校区を基本としたそれぞれの地域で、地域の事業者、学校、住民の各主体が協力して、環境問題に取り組む仕組みづくりを目指しています。活動の見学を希望される方は、フォーラム事務所までお気軽にご連絡ください。

(ご連絡先：1 ページ右肩面参照)

事務局短信 朝晩冷えてきましたが、冬のあったか省エネグッズが店頭に並びだしました。ミニ湯たんぽや色とりどりのひざ掛けなど、数年前にはほとんど無かった商品が販売され、エコがビジネスチャンスになっています。今年は何がヒット商品になるのか楽しみです。(西本雅則) / お世話になっている NGO の方から、東ティモールのフェアトレードのレギュラーコーヒーをいただきました。インスタントコーヒーとは違う、格別の美味しさ。朝の贅沢なひと時になりました。(小山直美) / 奈良のどこかのお寺で、ソメイヨシノが2本、この時期に春と勘違いして花を咲かせたというニュースがありました。草木が物を感じたり考えているとしたら楽しいですね。それゆえに、自然界のものを人間が横柄に壊したりしてはいけなくと改めて思いました。(小西賢人)